

平成28年度 小松市立今江小学校 学校評価中間報告

小松市立今江小学校

	自己評価					学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	今後の方向性 (改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況		
① 組織的な 学校運営	<p><目標>人材育成</p> <p>主任等を中心に、教員の専門性と同僚性を活かし、協働する学校作りをめざす。 【学びの指針+11条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>主任等のリーダーシップのもとで、各分掌が組織的に運営されている。</p>	<p>職員の学校運営への参画意識</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「十分に取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた教職員100% 校務分掌部会、企画委員会が定期的に開催され、十分な話し合いがなされている。各種の教育活動が、主任や担当者を中心にPDCAサイクルで実施されている。</p>	A	<p>部会間の連携、共通理解を強化し、協働的機動的に取り組んでいく。 今後も、教職員一人一人が学校や児童の実態を考慮し、学校経営ビジョンの具現化に向け組織的に取り組んでいく。</p> <p>特別活動・児童会活動・委員会活動・クラブ活動等を充実させるとともに、日頃の学級での活動やあいさつの取り組みを継続し、自己有用感の向上と、親和的な集団作りを推進する。</p> <p>今後も計画的に部会授業や全体授業を進め、成果と課題を次の授業改善に生かしていく。</p>	
	<p><目標>いじめ・不登校早期発見・対応</p> <p>教員個々の安全意識や危機管理能力を高め、いじめ等に組織的に迅速的確に対応する。</p>	<p>【努力目標】</p> <p>いじめ基本方針に基づき、未然防止、早期発見し、問題等には適切な対応ができている。</p>	<p>未然防止策の実施、組織的な問題対応</p> <p>A：迅速的確に対応が行われている B：対応している C：対応に問題がある D：対応できていない</p>	<p>「十分に取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた教職員100% 校内研修を通して、いじめ対応や未然防止の方策を共通理解している。また、問題に対しては管理職への「報告・連絡・相談」を徹底し、組織的な対応を行っている。</p>	A		
	<p><目標>指導力の向上</p> <p>教員研修と学校研究を充実により、教師の人間力・授業力の向上を図る。 【学びの指針+10条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>意欲的に研修や研究に取り組み、自己の授業力や指導力の向上につなげている。</p>	<p>教師の研修・研究への意欲</p> <p>A：「学びの集団」になっている B：研修や研究への意欲が高い C：研修や研究への意欲はある D：意欲が低く向上が見られない</p>	<p>「十分に取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた教職員94% 研究は、全体会だけでなく部会でも積極的・計画的に行われている。また、研修等での学びを日々の授業実践に活かそうとしている。</p>	A		
② 確かな 学力の 育成	<p><目標>「わかる・できる」授業の推進</p> <p>ねらいを明確にした「わかる・できる」授業で児童に学ぶ楽しさと成就感を与える。 【学びの指針+1・3・6条】</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>「わかった」「できた」と達成感や成就感を感じる授業作りが推進されている。</p>	<p>児童の授業への満足度</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「わかった」「できた」と感じている児童97% 課題設定の工夫、タイムマネジメントを意識した適用題の確実な取り組み等の授業実践に努めている。</p>	A	<p>今後も毎時間の達成感を感じられるような授業づくりを行っていく。また、ふりかえりを適宜入れ、何を学んだのかを自分で確認できるように指導していく。</p> <p>「学力調査に基づくチェックリスト」や「単元をこえる定期的な学力分析」、「ドリルの活用」等、具体的な活動に全校で取り組むことで、達成度の向上を図る。</p> <p>今後も、図書館司書と連携し、授業等で読書の推奨をしていく。また、毎月中旬頃に貸し出し冊数の少ない児童へ声かけや実際に図書館に連れていき一緒に選ぶなどの</p>	
	<p><目標>学力の定着</p> <p>学力調査の分析結果を共通理解し、適切な対応に迅速に取り組む、学力向上と定着をめざす。 【学びの指針+11条】</p>	<p>【努力目標】</p> <p>全教職員で問題を把握した上で、本校児童の弱点補強策を学校全体の課題として取り組んでいる。</p>	<p>問題や弱点の把握と解決の授業実践</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「十分に取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた職員94% 「十分に取り組んでいる」と答えた職員が23%にとどまったため、B評価とした。</p>	B		
	<p><目標>読書活動の推進</p> <p>各教科・領域等と関連した読書活動を工夫改善し、児童に望ましい読書習慣を確立する。 【学びの指針+8条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>一人の児童の一月の読書量が8冊を超え、市の読書目標年間100冊達成されている</p>	<p>月8冊以上読書する児童数</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「月8冊以上読書する児童数」は、4月76%、5月79%、6月91% 平均貸出数は1学期末で60冊となり、順調に読書活動が推進されている。</p>	B		
③ 豊かな 人間性 の 育成	<p><目標>親和的な集団づくり</p> <p>特別活動・児童会活動・委員会活動・クラブ活動等を充実し、自尊感情を高め、親和的な集団作りを推進する。</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>親和的な学級作りが進み、共感的な人間関係が醸成されている。</p>	<p>児童の学校・学級での満足度</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「学校や学級での毎日が楽しい」と答えた児童97%、「周りの人にやさしくしたり、親切にしたりしている」と答えた児童95% 教職員による親和的な学級作りが進み、児童が安心して学校生活を過ごしている。</p>	A	<p>今後も職員同士で児童の情報共有し、「報告・連絡・相談」を徹底する。また、あたたかな人間関係作りやいじめ対応について考える校内研修の充実を努めていく。</p> <p>全教育活動の中での道徳教育を推進し、次年度に向けてより良い年間指導計画の見直しを行っていく。</p> <p>今後も、ネット利用のあり方について、特にLINEやネットを介した人とのやりとり等について意識した指導を行っていく。 情報モラルに関する資料を整理し、学年に応じてどの資料を使用するかを明確にする。また、児童に指導するだけでなく、学級通信等を通じて家庭へも</p>	
	<p><目標>道徳教育の推進</p> <p>道徳の時間を充実させ、豊かな体験活動とつなげることで、心に響く道徳教育を推進する。</p>	<p>【努力目標】</p> <p>道徳教育年間指導計画（別業）に基づき、計画的に授業実践が行われている。</p>	<p>別業に基づく授業実践率</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>計画的に道徳の授業実践を行っている職員93% 各学年年間指導計画に基づき、児童の実態や学級の状況も加味しながら道徳教育が行われている。1学期のふり返りでも重点項目を中心に各教科や特別活動等と関連付けた指導が行われている。</p>	A		
	<p><目標>情報モラル教育の推進</p> <p>情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度を、教育活動全体の中で学ぶ。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>情報教育指導計画にもとづき、計画的に授業実践が行われている。</p>	<p>年間計画に基づく授業実践率</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>「十分に取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた教職員37% 2学期に実践を計画している場合が多い。高学年を対象に、夏休み前、インターネット利用に潜む危険性やインターネットの正しい付き合い方について指導した。</p>	D		

	自己評価				学校関係者評価	今後の方向性 (改善計画等)	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況		学校関係者評価者による意見
④ 健やかな体の育成	<目標>よりよい生活習慣の確立	【満足度指標】	児童の健康や生活への意識	[健康な体をつくるために進んで取り組んでいる]と答えた児童94% 毎週の生活チェックや給食後の歯みがき指導、家庭の協力によると思われる。	A	/	
	児童自身が健康や生活に関心を持ち、よりよい生活習慣や食生活づくりを推進する。 【学びの指針+8条】	「生活チェックカード」等に取り組み、児童の自己管理能力を高める。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
	<目標>体力の向上	【努力指標】	課題に基づく授業の創意工夫				「指導法を工夫している」と答えた教職員100% 体力テストでは、特に立ち幅跳びが県平均を大きく下回っていることから「跳能力」に関わる運動に課題があると言える。その状況のもとで全職員が体育の授業でコーディネーショントレーニングに取り組んでいる。夏休みには家でできる体力アップの宿題を全校で取り組んでいる。
	体育授業や生涯スポーツの工夫改善で、体育指導の充実を、体力の向上をめざす。	体力テスト結果をもとに、本校の児童の課題解決のための指導を工夫している。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
⑤ 家庭・地域との連携	<目標>学校からの情報発信	【満足度指標】	保護者の満足度	「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた保護者93% ホームページは、育友会活動や行事・学校だより等を適宜更新している。学級通信は、各担任がクラスの様子などを記載して、情報発信している。	A	/	
	各種便りやホームページで積極的に保護者や地域に情報発信し、学校教育への参画を進める。 【学びの指針+9・12条】	各種便りやホームページでの情報をもとに家庭でのコミュニケーションが増え、児童の学校生活がわかる。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
	<目標>郷土愛の育成	【満足度指標】	児童の地域の方への感謝の割合				「今江町や今江小学校が好き」と答えた児童97% 農業体験や歴史講話、地域行事等、様々で地域人材と関わる中で、児童にふるさとへの誇りや感謝の思いが培われている。
	地域人材の活用と、ふるさと学習の推進、地域行事への積極的参加を促し、郷土愛の育成に努める。 【学びの指針+12条】	「今江小学校」や「ふるさと今江町」を誇りに感じている。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
<目標>家庭学習の習慣化	【満足度指標】	学年に応じた家庭学習達成者の割合	目標時間「10分×各学年+30分」の達成者数70.8% 「家庭学習の習慣が身についている」と答えた保護者90% 昨年度よりも教師・児童の意識は高まっている。				
家庭学習の習慣化を、保護者と共通の目標を持って達成のために連携をする。 【学びの指針+8条】	基本的な生活習慣が確立し、家庭学習が習慣化している。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満					
				C	各学年の学校生活の様子を情報発信するため、ホームページを更新する頻度を高めていく。		
						今後も地域人材やふるさと教材を活用する学習を計画的に行っていく。	
			次回の家庭学習週間の取組で、再度目標時間を児童と確認する。また、1回目の結果をもとに、個別に指導・支援をしていく。				